

環境だより



環境課 ☎66・1121

- 資源物ステーションでよく見かける光景ですが、不燃ごみのかごの中にレジ袋に入っただまごみの多いこと！
- リサイクルプラザでは、シールバー人材センターの方が一つひとつのかごの中を全部チェックして、異物が混入していないか確認しています。レジ袋に入ってしまったまごみは、全部開封して中身を見なければなりません。この場合、次のような作業が余分にかかります。
- ① いったんレジ袋を開ける
 - ② 中身をかごの中に戻す
 - ③ レジ袋は焼却用のかごに捨てる
 - ④ レジ袋が一定量になると焼却

資源ゴミを入れてきた袋は…

却棟まで運搬されて焼却

不燃物などを袋から出し、分別をしてかごの中に入れていただければ、これだけの作業が不要になり、人件費を節約できます。レジ袋は、本来可燃ごみです。かごから出てしまうような小さな危険物など、やむを得ない場合を除き、ごみを入れてきた袋は持ち帰るようにしてください。

ごみの処理には、平成14年度、市民1人当たり、年間1万4千571円かかっています。ごみの減量と経費を少しでも節減できるよう、みなさんのご協力をお願いします。



▶この作業に多くの経費が

消防最前線

Journal of Fire Department 119

URL <http://www.city.gamagori.aichi.jp/syoubou/index.html>

街角で見かける消火栓、その隣に消防車が止まり、数人の消防士が出てきて、消火栓のふたを開けては中をのぞいていきます。そして、また少し進んでは止まって、同じことを繰り返します。これは、消火栓から水がすぐ出せる状態かどうかを点検する作業で、「水利調査」といいます。

まず、ふたの周りに草が生えていたり、土がかぶさっていないか確認します。そしてふたを開け、消火栓の口に消防車の吸管がはまって、水がすぐ出せるかを点検します。一見地味な作業で、はた目には止まったり降りたりと不思議に映りますが、これを欠かすと災害時に取り返しがつか

地味な作業ですけど



ないこととなります。草や土に隠れた消火栓を見過ごしたり、あるいは水が出なかったりと最悪の事態も起こりかねません。

調査では、消火栓の場所はもちろん、新しい建物や道路など、変わっていく町並みの情報収集も欠かせません。そして、消防士みなで集めた情報を、お互いに分かち合います。

真夏の暑い盛りだろうと、真冬の凍えそうなきだらうと、市内を駆け回り、水がたまっていけば、ひしゃくでくみ出し、標識が壊れていれば直さなければなりません。かつこよくもなく、地味な作業ですが、消防の大切な武器となる水を、どんなときでも確実に得るためには、決しておざなりにできないのが、この「水利調査」です。